

悩まなくてもだいじょうぶ



知っておきたい アレルギーの話

NPO法人アレルギーを考える母の会
代表 園部まり子



イラスト/清水直子

第42回

内閣府・避難所対策検討会

必要な支援が報告書に盛り込まれる



そのべ・まりこ ● 神奈川県社会福祉協議会セルフヘルプ支援事業運営委員。困っている患者と専門医との橋渡しを第一に「治療ガイドライン」情報などの提供、専門医による講演会や会報発行、行政への働きかけを行なっている。共著に『食物アレルギーの手びき 改訂第2版』（南江堂刊）。

＊ 白米と牛乳アレルギー用 ミルクの備蓄を

この連載の第37回で、東日本大震災の教訓を今後になかそうと設置された内閣府の「避難所における良好な生活環境の確保に関する検討会」の委員に任命され、被災当時にアレルギーの人たちが置かれた状況やアンケート結果、専門医と一緒に検討した必要な対応を報告したことを書かせていただきました。

その検討会の報告書が3月末に公表されました（＊）。報告書には、アレルギーの方たちに必要な避難所での配慮として、食物アレルギーに対応できるようにアルファ米等の白米と牛乳アレルギー対応ミルクなどを備蓄すること。その上で、食物ア

レルギーの避難者が食料や食事を安心して食べることができるよう、避難所で提供する食料の原材料表示を示した包装や、食材を示した敵立表を掲示し避難者が確認できるようにする。食物アレルギーの避難者の誤食事故防止に向けた工夫として、見て確認できるよう症状を引き起こす食材を明示したピブス、アレルギーサインプレートなどを活用する。

またアトピー性皮膚炎の悪化を避けるために避難所の仮設風呂・シャワールの優先的な使用、喘息など呼吸器疾患の悪化を避けるために、避難所内ではこりの少ない場所に避難させる必要があることなどが盛り込まれました。

報告書全体を見渡しても、ここまですべてに必要な配慮が書き込まれ

た疾患はこれまでになく、感謝の思いでいっぱいです。今後はこの報告書を基に、たくさんの自治体で準備に取り組んでいただくことを期待したいと思います。

＊ 広がった被災地の方々の ネットワーク

報告書とは別に、もう一つ大きな収穫がありました。それは被災した自治体の職員、保健師など専門職の方、学校の先生など、たくさんの方と知り合えたことです。中には「母の会」のその後の活動で、実際に被災地でお会いした方もいます。「母の会」はこれからも、検討会に参加して広がったネットワークを生かしながら、被災地での活動を続けていきたいと思います。